

深い苦境に陥ったアメリカ深層国家

【訳者注】このテーマのいくつかの他の論文と、特に変わったことが言われているわけではない。しかし、そこ意味があると思われる。この急速に見えてきたアメリカ「深層国家」の末路に対して、違う見方をする人はいないということである。もちろん、今後、どんな恐ろしいことが、いつ起こるか予測はできない。しかし今、歴史が、はっきり一つの方向に向かっていることは間違いない。この劇的な変化の時代に、一つの巨大な「悪そのもの」というべき権力集団が暴かれ、崩壊するとき、どのような破廉恥なことが行われるかを、我々はいま、自分の目で目撃しつつある。不謹慎かもしれないが、これはどんな小説や劇よりも面白い。これは我々自身と重ね合わせることができる。我々の内なる悪を含めて、悪が減びるとはどういうことかを、しっかり勉強しようではないか。

Finian Cunningham

January 8, 2017, Information Clearing House, Sputnik



アメリカの支配権力が深い苦境に陥っている。理由は、市民の大多数が、ワシントンがもつとされる権威にもはや従わない兆候が、ますます顕著になりつつあるからである。

ひとたび、権威を維持しようとする体制の合法性が、人民の目に崩れ始めると、

(しばしば不名誉な) 興亡を繰り返した無数の帝国を、歴史が示すように、深刻な政変が見え始める。

<https://sputniknews.com/politics/201701071049352466-americans-russia-cyberattacks-election/> (スプートニク：「ほとんどのアメリカ人は、ロシアの米選挙介入を信じない」)

軍-情報局と、その政治的な体制メディアという道具をもつ、いわゆるアメリカ深層国家 (Deep State) は、ロシアの米大統領選挙への介入といわれる事件をめぐって、その信頼性がゆらいでいる。

<https://sputniknews.com/world/201701081049367385-journalists-report-russia-hacking/>

この主張は見え透いていて、深層国家が協力して、高圧的に、何か確実らしいものを作り出す試みをしたにもかかわらず、全く根拠がない。

<https://sputniknews.com/us/201701081049370956-us-report-russian-hacking/>

最近の、CIA、NSA、FBI、その他、米スパイ局による、ロシアのサイバー攻撃と言われるものについての高レベルの情報報告書に、オバマ大統領や、さまざまな議員や、巨大企業に支配されたニュース・メディアは、スワと思ったかもしれない。

<https://sputniknews.com/russia/201701071049356450-sputnik-simonyan-report/>

一般のアメリカ人民についてはそうでなかった。一般市民の間では、反応は控えめに言っても盛り上がらないものだった。そしてそれは、支配体制にとって、不安のタネのはずである。もし人民に対して、もはや命令ができなければ、権力の基礎全体が砂上の楼閣のように崩れ始めるだろう。<https://sputniknews.com/politics/201701071049352466-americans-russia-cyberattacks-election/>

ニューヨーク・タイムズのある記者が報告している——「〈何を騒いでいるのだ?〉とトランプの支持者たちは、ロシアのハッキング騒ぎについて言っていた。」

ワシントンの政治的中心から遠く離れた選挙民の間では、一致しているのは、かつて尊敬された米情報局共同体への嘲笑の雰囲気である。

<https://sputniknews.com/us/201701081049371567-us-elections-report/>

汚い敗者、負け惜しみ、駄々をこねる、馬鹿々々しい——といった言葉が、ロシア大統領プーチンに指令されたスパイが、トランプに有利になるように 11 月の大統領選を操ったという言説について、一般の民衆から出てくる政府不信の言葉である。

「私はこの（米）情報部の報告を信じない」と、ルイジアナのある男性は言った。「なぜみんなが、ロシアをそんなに恐れるのだろうか？ 私はプーチンに反対ではない。」

また別の、退役米空軍士官は、「（米情報部の）報告を一部読んでみたが、ばかげている (silly) と思った」と言った。<https://sputniknews.com/us/201612151048617441-house-intel-committee-russian-hacking/>

次期大統領トランプは、ここでもやはり、一般市民の現実的な緊急の心配事に、より同調している。彼は、先週金曜日、米情報部チーフからの、いわゆるブリーフィングを終えて出てきたとき、ロシアの“戦争行為”を非難するワシントンのほら吹きたちには、自分は加わら

ないと明言した。実はトランプは続けて、ロシアとの良い関係を望まないのは、“馬鹿”だけだとコメントした。 <https://sputniknews.com/world/201701061049316575-trump-elections-hackers-allegations/>

これは、CIA 局員たちがトランプから求めたのは反応ではなかった。彼らと、彼らのオバマ政府の部下、議会、それにメディアは、魔女狩りのように、ロシアのサイバー介入という主張にあえて反対する者に目を付けるために、あの米情報部報告書を作っていたのである。ジョン・マケインとかリンゼイ・グレイアムのような戦争屋議員とは違って、トランプは、ロシアを悪魔化するバンドワゴンには飛び乗らなかった。

<https://sputniknews.com/politics/201701071049356119-us-russia-sanctions/>

そして肝心の点は、ワシントンに集中する深層国家の拘束の外にいる人々は、トランプに合意していると思われることである。貧困、失業、財政赤字、悪化するインフラと公共サービス、等々の膨大な社会問題を抱えたこの時代に、アメリカがロシア敵視政策を取るのには、注意を外へ向けるためであろう。これは優先予算と資源の軽蔑すべき無駄遣いである——核大国間の戦争への、無謀な扇動は言うに及ばず。

<https://sputniknews.com/politics/201701071049357790-trump-us-fools-russia/>

アメリカの情報局集団は、オバマのホワイトハウスと主流メディアに助けられて、社会の総注目を、反トランプ“ロシア・カード”に引き付けようとした。ところがトランプと民衆感情は、CIA 局員が期待したような、敬意ある態度で反応しなかった。

実際は、主流メディアの、“プーチンがトランプを勝たせようとキャンペーンを命じた”という、センセーショナルな見出しにもかかわらず、アメリカの情報局集団は、現在、笑うべきウソつきとして暴露されるという、実にまずいことになっている。

アメリカ国家体制の崩壊はかなり前から進行していた。しかし最近、トランプが選出され、主流メディアが“フェイク物語”に傾くとともに、このはずみには勢いがついた。先週は、ワシントン政府は、ロシアが米選挙にハックしたという話を流布させることによって、自ら好んで恥をかいた。これは“フェイク・ニュース”として直ちに暴露された。

<https://sputniknews.com/us/201701071049353362-us-russia-hacking-china/>

<https://sputniknews.com/world/201701051049276720-guccifer-fake-cyber-war/>

この最近のアメリカの情報局報告に関しては、トランプや一般のアメリカ人だけでなく、世界中の多くの観察者たちが、この素人仕事のような、証拠のなさや全体的な分析のお粗末さには、あきれ果てた。独立したサイバー・セキュリティ専門家たちは、アメリカに本拠を置

く人々を含めて、このロシアを貶める主張には嘲笑を浴びせた。

アメリカのスパイ局は、ロシアがヒラリー・クリントンの Eメール をハックしたことを、“証明する証拠” をもっていると主張するが、彼らは、“微妙な出所と方法を保護するために” その情報は開示できないと、筋の通らないことを言っている。そのような手品めいたトリックは、米情報局員と彼らに仕えるニュース・メディアを、さらに滑稽に見せるだけだ。

<https://sputniknews.com/us/201701071049342222-intel-report-dnc-clinton-data-correct/>

ひとつ明らかになったことは、この米情報部報告書が、ロシアのニュース・メディアである RT と Sputnik に、不均衡に大きな焦点を与えていることである。報告書は、ニュース・サービスが、クレムリンの“影響キャンペーン”の一部だと言い、自分自身のあやしげな理屈を、ロシアが米選挙をハックした“証拠” だとして引証している。もしそれが、アメリカの“国家安全保障守護者”たちが思いつく最上の論理だとしたら、ロシアに対する訴状は完全に無効だと保証できる。

<https://sputniknews.com/us/201701061049312247-rt-clapper-simonyan/>

<https://sputniknews.com/us/201701071049354998-trump-hack-evidence-intelligence/>

かつてアメリカには、陰に隠れた、選挙によらないエリートが、独占企業の、隷属的メディアと、彼らの権威に叩頭する隷属的政治家を通じて、社会をコントロールしていた過去の時代があった。また人々の間には、秘密警察が、この国の最上の利益を守ってくれているという、素朴な信仰があった。

ああ、それはもうなくなった。人々は、大規模な操作に対して目を開かれ、世界中で戦争や政権交代を、エリートの企業という狭い利益のために指揮している、このような影の権力者の犯罪行為に気づくようになった。一般のアメリカ人たちは、支配する陰謀団の策謀のために、自分の命と生活を犠牲にしていることを知っている。

「深層国家」の情報部チーフたちは、ロシアにひっくり返されたという奇怪な主張を、よくぞ思いついたと、オバマや議会から褒めそやされたかもしれない。しかし、ますます多くの、アメリカと他の世界中の一般人が、このウソや、ロシアを敵視する露骨なアジェンダを見抜いている。この狂った敵意は、深層国家のエリートの利益だけに奉仕している。

かつて恐れられ敬意を払われた、アメリカの深層国家は、今、深い行き詰まりに直面しており、それは生死にかかわる危機かもしれない。なぜなら、そのものは、かつての自分の信用と権威がずたずたになっていることを、意識の深層で知っているからである。

<https://sputniknews.com/politics/201701051049291661-kerry-us-russia-exit->

memorandum/

歴史を通して、アメリカの支配者たちは、ニセ旗作戦やでっち上げた危機を用いて、戦争や紛争を起こすという、彼らの芝居をうまくやり通してきた——今は秘密でもない日本の真珠湾攻撃、ベトナムでの、アメリカの民族抹殺をエスカレートさせた、ねつ造のトンキン湾事件、限りなく疑い濃厚な9・11テロ、イラクの、存在しない大量破壊兵器など、そのほんの一部にすぎない。

この同じ戦争業者の、アメリカの支配階級が、もう一つの軍事力競争である、ペンタゴンを勢いづかせる、ロシアとの冷戦を望んでいる。しかしこの度だけは、彼らは、あまりにも明らかに空虚なカードを切った。アメリカの情報局員と、彼らのエリート体制は、トランプ、アメリカ人民、ロシア、それに世界中の人々が、彼らが全く手詰まりであることを知っていることを、知っている。

信用もされず、モラルも権威も失ったアメリカの深層国家は、深い苦境に陥っている。